

御津医師会の取り組みと金川病院・みつネット

国立病院機構岡山市立金川病院 院長 大森信彦

産声を上げて間もないこの学会への期待を込めて、私共が、御津医師会の活動の一環として進めてきた活動と今後の展望の一端について紹介させていただきたいと思います。

【御津医師会の紹介】

御津医師会は、国立病院機構岡山医療センター（以下 岡山医療センター）のある岡山市北区津高・一宮地区を南端として、北端の御津・建部地区、西端の吉備中央町またがる広域をカバーした医師会です。平成 27 年 4 月からは、吉備医師会の足守・高松地区の先生方も合流し、会員数 120 名強に膨れ上がり、名実ともに、岡山市北部の地域医療を守る担い手となりました。以前から、在宅医療に真摯かつ情熱的に取り組む先生方が多く、夜間輪番制、年一回開催の御津医師会シンポジウム、住民への報告と感謝の集い、月一回の学術講演会をはじめとする多くの事業を実施し、「ときどき入院、ほぼ在宅」を合言葉に、活発に活動しています。昨年は、地元の役者さんや専門職が出演して、『リビングウィル～私たちの選択』という啓発ショートムービーを制作し、多方面、他府県からの反響・問い合わせが多数寄せられました。

【御津医師会の最近のトピックス】

在宅診療の現場に限らず地域密着医療の現場においては、「入院が必要なのだが、大病院に依頼するほどでもない、あるいは、どこに頼むのが適当か迷う。こまったなあ・・・」といったケースや、「入院依頼をしたが断られたため、受け入れ可能な病院を探さねばならない。時間もかかるし、どうしたらよいだろう？」と悩むケース、あるいは、往診先に出ていて、入院先をあれこれ自分で探す余裕がないケースなどしばしば経験すると思います。御津医師会では、この「困ったときの相談窓口」という位置づけで、『岡山市北部地域合同連携デスク』を設置し、電話による患者トリアージを実施しています。この連携は近隣の 10 病院で構成し、毎月一回、エントリー事例についての検証会を開催しますが、病院間の転院先相談にも活用されるなど、有用性が確かめられました。まだ、月に 10 例程度の利用にとどまっていますが、今後さらに増加すると思われます。

この「連携デスクシステム」の発足がきっかけとなり、昨年より、『北部地域病診医介連携ネットワーク会議』がスタートしました。これは、岡山駅より以北の地域を一つのまとまった「緊密連携地域」とみなして、「連携デスクシステム」に参加している病医院、訪問看護、ケアマネ、介護保健施設の担当者などが一堂に会し、在宅医療と病院医療のはざまに存在する諸問題について、テーマを決めて自由討論する場です。毎回 200 名近い参加を得て、熱い議論の盛り上がりを見せています。連携して扱った患者さんに関する情報交換の場という位置づけもあり、会の前後も、施設間で個別に話し合いをもっており、顔の見える関係

の醸成にも役立っています。

【金川病院とみつネット】

私が勤務している国立病院機構岡山市立金川病院（以下 金川病院）は、1 中学校区人口約 1 万弱、高齢化率約 35%の岡山市北区御津に位置しています。岡山市と岡山医療センターの指定管理契約により、平成 24 年 4 月、現在の場所に移転、開院いたしました。現在、地域包括ケア病床 20 床、一般病床 10 床の入院機能と、親病院である岡山医療センターとの連携体制のもと、内科・外科・リハビリテーション科・眼科・皮膚科の外来診療科を開設しています。開院以来、御津医師会の先生方には日当直や外来診察に加わっていただく一方、在宅患者さんの入院受け入れや、放射線検査など臨床検査の受託などを通じ、相互協力体制を築いています。加えて、開院と同時に、医師会の協力のもと、医療・介護スタッフや地元住民、行政、学校関係者、商工会などから構成された、『みつネット』を立ち上げましたが、医療・介護領域のみならず、地域活性化について、皆で話し合っていく場、研修していく場として定着しつつあります。『みつネット』は、平成 24 年度から御津医師会が受託した、岡山県在宅医療連携拠点事業の受け皿となり、当院内に『御津医師会地域連携室』を置き、平成 27 年度まで、在宅看取りの推進、リビングウィル・エンディングノート作成の啓蒙、認知症早期発見の啓蒙、IT 活用による情報共有の試み、地域健康新聞の定期発行など多岐にわたるプロジェクトを企画・実施してまいりました。平成 28 年には、地元住民も協力いただいて、当院敷地内で『みつネット健康フェスタ』を大成功裏に開催することができました。

先にも述べましたように、御津医師会は広域で、「都市部」「中山間部」でかなり事情が異なるため、現在は、『御津医師会地域連携室』を津高・一宮地区の御津医師会事務局内に移し、『津高・一宮ネット』『吉備中央あんしんネット』『みつネット』の 3 ネットに分かれて地域密着活動を展開し、医師会全体の事業は協力して運営しています。新たに足守・高松地区も加わり、ネットワークの構築を進めています。

【御津地区における地域包括ケアシステム：近未来への“夢”】

当地は、平成 17 年の自治体大合併以前、人口 1 万を超える御津郡御津町でした。伝統的に互助・共助の意識が高く、『健康みつ 21』などのプロジェクトを通じた地縁型の住民活動が活発な地域であり、『地域包括ケアシステム』の下地が、既に形成されていたと言える土地柄です。残念ながら、岡山市との合併後、予算削減や中心となる住民の高齢化、後継者の不足などによって、住民活動がやや低調となっているのは否めません。幸い、旧町政時代に誘致した工業団地、保育園や幼稚園などの社会資源の充実、旧県立福渡高校と旧県立金川高校の統合で 10 年前に発足した県立御津高校の存在により、外部から多数の若年者が流入するため、昼間人口は 2 万程度まで膨らみます。加えて、岡山空港や山陽道岡山インターチェンジ、岡山医療センターから車で 15 分という利便性もあり、「適度な不便さと便利さが共存する、穏やかで安全・安心な中山間地」と言って過言ではありません。このような環境は、

今後の地域包括ケアシステムの構築に様々な示唆と可能性を与えていると私は考えています。即ち、『地域包括ケアシステムの充実＝地域活性化・まちづくり』であり、医療・介護単独で取り組める問題ではなく、農業、商業、工業、教育など、他職種を巻き込んだ協働プロジェクトとして進めていく必要があります。その中において、『みつネット』がその「場」を提供し、金川病院をはじめとする医療・介護専門職が、全体の取りまとめ役として中心的役割を担っていくことこそ、近未来の『御津型地域包括ケアシステム』の姿と言えるでしょう。このような視点から、『みつネット』のNPO法人化を進めるとともに、例えば、下記のような「夢プロジェクト」を計画しています。今後の展開については未知数で、荒唐無稽な大風呂敷と感じられるかもしれませんが、皆で知恵を絞って、楽しみながら試行錯誤していきたいと思っておりますので、温かく見守っていただければ幸いです。

例1) 若者を地域へ：御津高校の地域課題発見解決学習プロジェクト「御津地域学」に全面協力し、生徒を町内会活動、サロン活動、健康増進活動などの立案・実施に関わらせ、世代間の交流を促進していくことで、高齢者を支える地域活動の維持と、悩みを抱える若者の「居場所」の確保にも役立てる。

例2) 医・農・福連携でまちおこし：農作業による「癒し効果」についての医学的実証実験を行い、有効性を確認する（現在進行中）。農家でのホームステイ、病院での治療・指導などを組み合わせ、職場や介護現場におけるストレス管理、認知症や緩和医療に役立てていく。